2022
3月号

福岡地区労連

発行：福岡地区労働組合総連合
〒812-0016
福岡市博多区博多駅南１－９－８
ケイ・アイビル２Ｆ
TEL　092-433-3338
FAX　092-433-3535
Mail：fukuciku@gmail.com
（ＨＰはこちら）

22春闘で大幅賃上げ・最低賃金引上げで底上げを

福岡地区春闘共闘は、22春闘の山場の行動として2・18地域総行動に取り組みました。今年の春闘は、エッセンシャルワーカーや非正規労働者の賃金労働条件の引上げが急務であることから、自治体における最低賃金引上げのための意見書採択に力を入れており、福岡市議会の全会派に紹介議員となっていただくよう要請をしました。

最賃引き上げ意見書採択へすすむ

福岡地区春闘では、1月23日の春闘総会で「最低賃金の引上げ、公契約条例の推進、公務労働者の賃金労働条件の引上げ」を柱に春闘方針を確立し、スタートしました。この間では公務労働者の増員署名で団体訪問、古賀市議会の議長懇談や政党の議員団との懇談で最賃意見書のロビー活動を行ってきました。現在は、古賀市、粕屋町、太宰府市を中心に進めています。とりわけ太宰府市議会では、3月議会中に意見書を提出することとなっています。

オンラインによる中小企業家同友会
川畑専務理事との懇談（右下）

8時間働けば普通に暮らせる社会のために

2月18日の地域総行動は、中小企業家同友会との懇談、福岡市議会全会派要請、組織拡大宣伝行動、22春闘決起集会を一日がかりで行いました。中小企業家同友会の川畑専務理事は、どのようにして最低賃金1，500円を実現できるのか議論になっており、それだけの賃金を払える企業の成長が重要であると述べました。

福岡市議会全会派要請では、日本共産党が懇談。同党の倉元たつお幹事長は、「わが党としても8時間働けば普通に暮らせる社会をつくるためにも、最低賃金1500円への引上げは必要である」と地区春闘の意見書に賛同を表明しました。緑の党と市民ネットワークの会も意見書に賛同を示していただきました。両会派は、今後どのような形で採択を目指すかを地区春闘と協議をしていきます。要請行動には地区春闘から11名が参加でした。

3・10全国統一行動に向けて

地区春闘は、今後、3月10日の全国一斉宣伝行動に向けて、最低賃金の意見書採択のため、各自治体の議員要請の継続、公契約条例の制定推進運動に向けて関係単産と調整し、具体的取り組み、環境問題に関する学習会を進めます。

（編集委員　内田）

2.18福岡県春闘共闘決起集会
ハイブリット開催

安心して生活できる年金制度へ

厚生年金の始まりは、第2次世界大戦の戦費調達のために創設され、約3億円が戦費に消えたと言われています。その後1954年より厚生年金、1961年に国民年金がスタートしました。当初は積立方式で自分の年金は自分で積み立てて、時期が来れば受給するとなっていました。現役の人が払い込んだお金を現在の高齢者に支給する仕組みは、当時の政権与党が強行採決をして変更したもので、納入者が減ると支給も減る方式です。

自公政権は、「100年安心の年金」を主張していますが、その中身は「マクロ経済スライド」という年金を減らし続ける仕組みです。年金の積立金、200兆円を温存し、アベノミクスによる大企業の大儲けに流用する一方、マクロ経済スライドで年金を2040年まで下げ続けて7兆円も削ります。これでは現役世代の方たちの将来に不安の影を落とすだけです。

年金者組合は、年金削減が「健康で文化的な生活を保障する」憲法第25条に反するとして年金引き下げ違憲訴訟で闘っています。裁判では原告が生活実態を陳述し、年金が引き下げられたら生きていけない実態を社会に訴えています。

これから年を取る人も、いま高齢の人も安心の年金制度へと改定していくため、請願署名を集めています。ぜひ協力していただきたいと思います。

（年金者組合　森塚）

今後のスケジュール

●全国一斉行動
日時　3月10日(木)
18：00～18：30
場所　博多駅筑紫口

●原発ゼロ！
3・11福岡集会
日時　3月11日(金)
場所　警固公園

●いのちと暮らしを守る一斉行動
日時　3月13日(日)
14：00～

〈コロナ特集〉

政府のコロナ対応は不十分
医療現場での不満の声

新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の感染拡大に伴う救急搬送困難事案や死者数が急増しています。これまでの政府のコロナ対応の不十分さを改善できていない実情に医療従事者からは不満の声が出ています。今回は、公益社団法人福岡医療団の看護師、看護福祉士、事務の方々に今の現場のリアルの実情についてインタビューをしました。

オミクロン株であっても命にかかわる

たたらリハビリテーション病院　河谷　靖

２０２２年１月18日、勤務しているたたらリハビリテーション病院で新型コロナウイルス感染症のクラスター感染が発生しました。現場では感染隔離のためのベッド移動、コロナ陽性患者への対応のための医療体制の変更、保健所との連絡、職員が感染したことによる人員不足など、コロナに関連する問題が次々と起き、その都度対応していくという大変な状況に置かれています。系列の千鳥橋病院からの応援でなんとか現状を維持している状況です。悲しいことですが、陽性患者さんの中には亡くなられる方もおられました。

現場で感じる問題点はいくつもありますが、主に感じた問題はＰＣＲ検査（結果が４日後になるケースがありました）の体制の脆弱さです。また、保健所との連絡・事務処理の煩雑さも現場の業務を圧迫しています。医療従事者が患者さんへきちんと対応できる体制にしてほしいです。また、オミクロン株であっても、基礎疾患がある方が感染すると命にかかわる事を知ってほしいと思います。

医療現場に大きな亀裂と分断

福岡医療団労働組合　執行委員長　三苫　哲也

ご存じの通り、岸田内閣は看護師に約４００円、介護福祉士に９０００円の賃上げをするように各都道府県を通し医療機関に通知しました。しかもご丁寧に正式文書に「春闘にさきがけて」という但し書きつきでありました。このことは明らかに労働組合の成果ではなく、あくまでも政府がやったのだという人気とりの意図が見えてきます。いわば、国家的不当労働行為であると私は思っています。また、ぱっと見ると、賃上げをするのだからいいんじゃない？と思われてしまうのですが、その中身は医療現場に大きな亀裂と分断をもたらすものであり、到底受け入れることができる中身ではありません。同じ経営体で働きながら、性格の違う病棟ではたらくことにより賃金に格差をつけるということは、おなじライセンスを持ちながらも急性期で働く看護師のほうが、慢性期で働く看護師よりも「うえ」という評価をしてしまうことにほかなりません。

福岡医療団労働組合は連帯する仲間とともに今回の賃上げが国家的欺瞞であることを糾弾して22春闘をたたかう決意です。

院内クラスター感染復帰するのが怖かった

千鳥橋病院　看護師　永利風花

私は循環器病棟で働く3年目の看護師です。コロナ病棟編成に伴い、他科を診たり未経験のオペ出しをしたりと、大変ながらもスタッフ全員で頑張っています。そんななか、院内でクラスター発生、私自身も感染してしまいました。発熱と喉の痛みが続き、一人暮らしの私は死を考えるほどでした。それと同時に病棟へ迷惑をかけたことが申し訳なく、出勤するのが怖かったです。しかし復帰時には笑顔で「待ってたよ」と声をかけてもらい、ここで働いていてよかったと思いました。終息後、皆と一緒に美味しいご飯が食べれることを楽しみに頑張ります。

夜勤も休憩時間が取れない

社会福祉法人ちどり福祉会　江坂　和哉

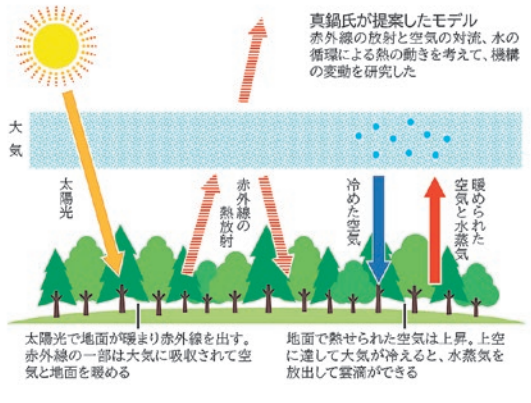
社会福祉法人ちどり福祉会で介護福祉士をしています。現在は、コロナ発生はないですが、家庭持ちのスタッフの子どもが濃厚接触で急きょ休みになり、急な勤務変更で出勤したりしてスタッフへの負担が大きくなってきています。また、重度な利用者も多く、発熱などがあった際は、ＰＣＲ検査を実施し、結果が出るまで隔離対応をおこない、他のフロアなどの行き来ができず、夜勤も休憩時間が取れないなどの実態があります。

このコロナ禍で、人員も限られており現場の負担も大きくなっていますが、利用者の心に寄り添ったケアができるようにこれからも取り組んでいきたいと思います。

〈労働組合と地球環境問題を考える③〉

真鍋さんノーベル賞

地球環境の研究は、昨年8月に発表されたＩＰＣＣの第6次報告書でノーベル物理学賞に輝きました。受賞者は日本の物理学者真鍋淑郎さんです。真鍋さんは現在の温暖化や異常気象が人為的であることを予測するモデルをつくりました。真鍋さんが開発した大気と海洋との関係を整理した「大気海洋結合モデル」は「条件を設定してプログラムを動かすと、実際の地球そっくりに海流や気圧配置が出現する」というものです。地球上では必ず物理法則にのっとって現象が起き、物理法則は計算式で表現できるため、データさえそろえばかなり厳密に未来の大気の様子を予想できます。真鍋さんがつくったプログラムが実証するまでは「異常気象はこれまでも発生している」などとして世界の多くの科学者や研究者は懐疑的でしたが、ＩＰＣＣによって人間の影響と断言されました。内容は、工業化による気候変動を科学的に20年以内に1.5度の気温上昇が発生するとの予測です。地球温暖化は「疑う余地はない」人類にとって死活的問題です。



（編集委員会　恵藤）